

## 「みらいーらブックセレクション」

### 本がつなぐもの

レファレンス・ドキュメンテーションチーム 横田誓子

#### 概要

「みらいーらブックセレクション」は、浜松ロータリークラブとの共催で、市内の小・中学生を対象に、科学館職員がその人に読んでもらいたい本を1冊選んでプレゼントする催しです。「本を贈る」ことを通してやり取りした職員と子どもたちのメッセージを、本とともに展示する「みらいーらブックセレクション展」についても紹介します。

#### 1. はじめに

2020年度から始まった「みらいーらブックセレクション」は、日ごろ浜松科学館に来館しない子どもたちを対象に、書籍と浜松科学館との接点を生み出すことを目的とした催しです。折しも、新型コロナウイルス感染症の感染拡大という社会状況と重なり、多くの人を科学館に集めなくても、利用者と接点をもつことができる、時宜にかなった催しともなりました。コロナ禍により大きく変化した社会の中で、浜松科学館はどのように人とつながり続けるのか。新しい社会の中での浜松科学館事業の一つの試みとして、ご紹介します。

#### 2. 浜松ロータリークラブの協力と支援



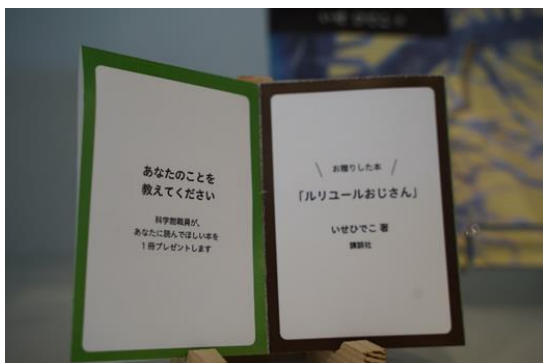
この催しは、浜松ロータリークラブの支援（寄附）と協力を得て開催しています。浜松科学館へ本をご寄贈いただくだけでなく、子どもたちの未来へつながる「本との出会い」の場を創出し、地域における人材育成にご尽力いただいています。

#### 3. 事業の流れ



- 2022.3月 募集開始
- 4月 選書
- 5月 本の引き渡し  
感想・メッセージの返送
- 6月 展示開始(～8月末)  
浜松ロータリークラブによる  
記念品贈呈式

## 【募集】



～あなたのことを教えてください～

この企画では、募集の際、応募者にいくつかの質問に答えていただきました。

- 好きなものを教えてください。
- もっと知りたいことは何ですか？
- これからやってみたいことはありますか？
- 今、困っていることを教えてください。
- これだけはしないと心に決めていることは何ですか？

これらの質問への回答をもとに、職員がその人にぴったりだと思う、あるいはぜひ読んでもらいたいと思う本を1冊ずつ「選びます。2022年度は50人の子どもたちに本を贈りました。

## 【感想・メッセージのやり取り】

～交流、本との出会い～

選んだ本を贈る時、職員は本のおすすめポイントや、その本にまつわるエピソードなどを書いたメッセージカードを添えました。そして、本を受け取った子どもたちに「本を読んだ感想をぜひ教えてください」と呼びかけると、26人から感想やメッセージが送られてきました。

## 【ブックセレクション展】

～交流の軌跡～

6月18日から8月31日まで、浜松科学館のサイエンスライブラリーで「みらいーらブックセレクション展」を開催しました。展示では、本を贈った職員のメッセージと、本を受け取った子どもたちのメッセージや感想を、贈った本とともに展示しました。小さな展示でしたが、多くの人が足を留めてくださいました。



## 4. 科学館とライブラリー

浜松科学館のライブラリーは、1F カフェに併設されたオープンスペースで、誰でも無料で利用できます。科学に関する書籍を中心に、絵本や小説なども置いているので、調べものだけではなく、食事の合間に読書を楽しんだり、親子で読み聞かせをしたりすることもできます。生き物観察などのイベントでは、自然観察園やサイエンスパークで捕えた生き物を、ライブラリーの図鑑で調べるなど、事業でも活用されています。また、「自然、光、音、力、宇宙」の5つのテーマによる体験型のアイテムを揃えた常設展示内には、各ゾーンに「ゾーンライブラリー」を設置し、テーマに沿った書籍を、展

示室内で読むことができるようにしています。当館の体験型の展示には、解説があまり用意されていません。これは、利用者の能動的な学びを引き出し、コミュニケーションを重視したインタラクティブ（対話・双方向）な学びを目的としているためですが、展示を体験しながら疑問に思ったことや、さらに知りたいと思ったことを書籍でも調べられるように、科学館のさまざまな場所に小さなライブラリーを設置し、身近に本がある環境を整えていきたいと考えています。

## 5. 「みらいーらブックセレクション」の二つの魅力

### ①本との出会い

科学館が「本」をプレゼントするというと、科学に関係する本を贈ると思われるかもしれませんが、選書は特に限定せず、職員に自由に選んでもらいました。「科学館から贈られた本」ではなく「科学館職員から贈られた本」というのが、このイベントのおもしろさです。職員それぞれが、ただ一人のために1冊の本を選ぶ。子どもたちにとっては、本との出会いとともに、科学館職員とのささやかな、しかし特別なつながりを感じてもらえるのではないかと思います。職員も、科学館にアクセスしてくれた、まだ会ったことのない子どもたちを思い浮かべながらの選書を、新たなコミュニケーションとして楽しんでくれたのではと思います。

### ②交流

「みらいーらブックセレクション」では2つの交流がありました。

1つ目は「言葉の交流」です。実際にやり取りしたメッセージを紹介します。

### 【送った本】

「きみは宇宙飛行士！宇宙食・宇宙トイレまるごとハンドブック」

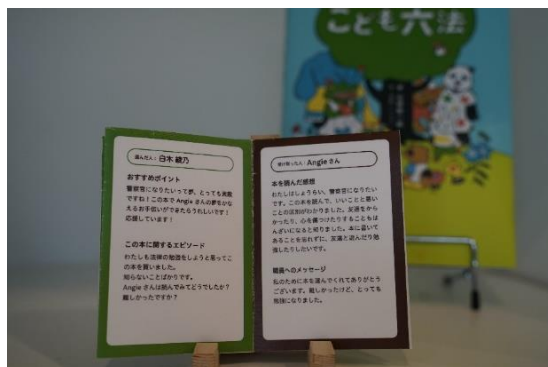
### (職員のメッセージ)

今年 JAXA が宇宙飛行士の募集をしました。4000人以上の人が応募したそうです。あなたと同じように宇宙に行きたい仲間はたくさんいますよ。あなたが大人になる頃はもっと宇宙は身近になっているかもしれません。ぜひ宇宙飛行士を目指してみてください。」

### (本を受け取った子のメッセージ)

ぼくは、保育園のころから宇宙飛行士になりたいと思っていて、小学6年生になった今でもその夢は変わっていません。この本には、ぼくの知らない宇宙飛行士のひみつがいっぱい書いてありました。

中でも着陸する時に、背骨が折れるくらいの衝撃を体験する事にビックリしました。あと、最大8時間くらい何も食べないで作業をするというところで、食いしん坊のぼくに耐えられるか心配になりました。でも、がんばって宇宙飛行士になって宇宙から地球を見てみたいです。この本はとても勉強になりました。ぼくのために選んでくれてありがとうございます。



2つ目は、実際に選書した職員との交流で

す。メッセージや感想を書いてくれた人には、記念品を渡ししたのですが、その時初めて、選書を担当した職員と応募者が顔を合わせました。

「本はおもしろかったですか？」

「星座が大好きなんです。プラネタリウムもぜひ、観にきてください。」

「とても気に入りました。毎日読んでいます。」

「少し、難しい本でした。」

など、展示された感想やメッセージを前に、少し恥ずかしそうに職員と話をする様子が見られました。



また、アンケートに書かれていた「もっと知りたいこと」について、職員が手書きで作った資料を手渡し、その場で解説をする場面もありました。



1冊の本を介して、交流が生まれる。「本」が科学館と人をつなぐ。それが、「みらいー

らブックセレクション」の魅力ではないかと思えます。

## 6. つなぐ

「本を読むことが好きです。うそをつく、人をきずつけることはしないと決めています」

アンケートにそう書いて送ってくれた子に私は『ルリユールおじさん』(いせひでこ著、講談社)という本を選びました。この絵本は壊れてしまった図鑑を再生してくれた製本職人のおじさんと少女の温かい交流を描いています。

「ルリユール」とは「製本・装丁」などを意味するフランス語です。論文「フランス工芸製本の技術と歴史」(松下真也)の冒頭に「ルリユール」の語源について次のように書かれています。

語源辞典を引くと、relier (ルリエ)、reliure (ルリユール)、さらには「製本家、製本職人」をあらわす relieur (ルリユール)などの語がすべて「結ぶ」という原義をもつ動詞lier (リエ)から派生した語であることが知られる。lierは連結の意のliaison (リエゾン)などとも関連し、もとはラテン語のligare (リガー)・結ぶ・繋ぐ)から出

「みらいーらブックセレクション」は、6か月という長い時間をかけて、「科学館」と「本」と「人」をつないだ催しでした。今後も続くであろう不安定な社会状況の中、多くの子どもたちにとって、安心して参加してもらえる科学館の催しの一つになればと思います。

## 6. おわりに

2019年に世界的に蔓延した新型コロナウイルスは、私たちに博物館の存在意義とあり方を問う大きな契機となりました。博物館の価値の基準が来館者数などの数値だけではないことに改めて気づかされたものの、展示体験とコミュニケーションを重視した科学館で、人を集められない状況はたいへん苦しいものでした。そのような中、臨時休館が決定して、すぐに工作体験や生き物観察を紹介する動画「おうちDEみらいーら」や「おそと DE みらいーら」を配信できたことは、どんな状況でも科学の楽しさを伝え続けたいという職員の強い思いがあったからだと思います。しかし、これは科学館での体験の「代替」ではなく、あくまでも「拡張」であることを前提にしたものでした。感染症の感染流行の波をいくつか経て、感染症法上の分類が変わっても、終息したわけではありません。今後も、来館者に安心して施設を利用していただくために、私たちはこれからも、新しい社会・生活様式のもと、新たな科学館運営、事業を常に模索し続けなければならないと思います。

「みらいーらブックセレクション」は、冒頭でも紹介したように、浜松ロータリークラブの支援によって実施された単年度事業です。「本を贈る」という、科学館に足を運ばなくても参加ができる、しかも科学にあまり親しみを持ってない、科学館に来たことがない「未」来館者も対象とした事業にご支援いただいたことは、たいへん意義深いものと思っています。新しい社会・生活様式の中で、科学館を身近に感じ、地域（企業）、利用者、科学館職員がともに作り上げていく事業の一つとして、今後も継続して実施し

ていきたいと考えています。

資料：2022年「みらいーらブックセレクション」選書（寄贈図書）一覧（順不同）

- ・『世界恐竜発見地図』（ヒサ クニヒコ著、岩崎書店）
- ・『こども六法』（山崎総一郎著、弘文堂）
- ・『デザインあ あなのほん』（NHK エデュケーショナル、小学館）
- ・『はくぶつかんのよる』（イザベル・シムレル著、岩波書店）
- ・『世界でいちばん貧しい大統領のスピーチ』（くさばよしみ編集、汐文社）
- ・『木をかこう』（ブルーノ・ムナーリ著、至光社国際版絵本）
- ・『宇宙ーそのひろがりをしろうー』（加古里子著、福音館書店）
- ・『もし高校野球の女子マネージャーがドラッカーの『マネジメント』を読んだら』（岩崎夏海著、ダイヤモンド社）
- ・『植物図鑑』（有川浩著、幻冬舎）
- ・『ときめく文房具図鑑』（山崎真由子著、山と溪谷社）
- ・『論理的思考力が身につく！ こどもプレゼン教室』（前田謙利著、宝島社）
- ・『きらめく甲虫』（丸山宗利著、幻冬舎）
- ・『向日葵の咲かない夏』（道雄秀介、新潮社文庫）
- ・『マンガと図鑑でおもしろい！ わかる元素の本』（うえたに夫婦著、大和書房）
- ・『恐竜博士のめまぐるしくも愉快的な日常』（真鍋真著 ブックマン社）
- ・『乗り物のしくみ図鑑』（小峰龍男著、学研）
- ・『へびってオナラするの？』（ニック・カールソ著、パンローリング者）
- ・『医学のたまご』（海堂尊著、理論社）

- ・『気持ちを表す言葉の辞典』（飯間浩明著、ナツメ社）
- ・『元素と周期表』Newton 別冊（ニュートンプレス）
- ・『クマと森のピアノ』（デイビッド・リッチフィールド著、ポプラ社）
- ・『解きたくなる数学』（佐藤雅彦ほか監修、学研）
- ・『探して発見！ 観察しよう生き物たちの冬越し図鑑：昆虫』（星輝行著、汐文社）
- ・『新幹線大百科』（「旅と鉄道」編集部著、天夢人）
- ・『十歳のきみへ』（日野原重明著、富山房インターナショナル）
- ・『楽しい動物化石』（土屋健著、河出書房新社）
- ・『ウーパールーパーともっと仲良くなる本』（藤谷武史著、エムビージェー）
- ・『電子工作パーフェクトガイド』（伊藤尚未著、誠文堂新光社）
- ・『虫のすみか』（小松貴著、ベレ出版）
- ・『料理はすごい！』（秋元さくらほか、柴田書店）
- ・『なぜ僕らは働くのか』（池上彰著、学研プラス）
- ・『理科頭脳をつくる食べられる実験図鑑』（中村陽子著、主婦の友社）
- ・『日本発酵紀行』（小倉ヒラク著、D&DEPARTMENT PROJECT）
- ・『食べられる科学実験セレクション』（尾崎好美著、SBクリエイティブ）
- ・『極北の動物誌』（ウィリアム・ブルーイット著、ヤマケイ文庫）
- ・『宇宙においでよ！』（野口聡一著、講談社）

- ・『ルリユールおじさん』（いせひでこ著、講談社）
- ・『じしゃくのふしぎ』（フランクリン・M・プランリー著、福音館書店）
- ・『円周率の謎を追う』（鳴海風著、くもん出版）
- ・『雪の結晶』（ケン・リブレクト著、河出書房新社）
- ・『ピアノは夢をみる』（工藤直子著、偕成社）
- ・『言の葉連想辞典』（遊泳舎編集、遊泳者）
- ・『宇宙について知っておくべき 100 のこと』（アレックス・フリス、小学館）
- ・『マンガでわかるギリシャ神話』（佐藤俊之監修、誠文堂新光社）
- ・『きみは宇宙飛行士！』（ロウィー・ストーウェル著、偕成社）
- ・『歴史について知っておくべき 100 のこと』（竹内薫著、小学館）
- ・『よかったねネッドくん』（レミー・社ーリップ著、偕成社）
- ・『ふしぎなにじ』（わたなべちなつ著、福音館書店）
- ・『数ってどこまでかぞえられる？』（ロバート・E・ウェルズ著、評論社）